



昭和34.4.15 第16号

目次

関係法令(等)法律, 政令, 省令, 訓令, 規則
告示, 法律施行通知, 通達…………… 1

学内規程
学生守則一部改正…………… 2
事務組織規程の一部改正…………… 2
学部事務分掌規程の一部改正…………… 2
薬学部規程の一部改正…………… 2
文理学部教授会規程の一部改正…………… 2
各学部規程の一部改正…………… 3
学則の一部改正…………… 3
経済学部規程の一部改正…………… 3
工学部規程の一部改正…………… 3

人事異動
…………… 5

総合情報
第七回卒業式…………… 8
昭和34年度入学試験実施…………… 9
昭和34年度入学式挙行…………… 9
経営短期大学の発足…………… 10
経済学部および工学部の専攻科設置…………… 11
経済, 教育両学部長の改選…………… 12
鳥山初代学長の逝去…………… 12
渡辺, 小寺教授等4教官停年退職…………… 12
渡植教授の退任…………… 13
飯原講師の退職…………… 14
佐藤講師(教)の転出…………… 14
原田, 大花氏等の退職…………… 14
大浦彦吉助手(薬)の学位取得…………… 14
昭和33年度卒業, 修了学生就職状況…………… 14

レクリエーション便り…………… 15
富山地方公務員R連盟行事…………… 15

学部情報
文理学部…………… 15
薬学部…………… 16

特別寄稿
クマリン誘導体の研究 川瀬義之…………… 16
ソヴィエトに旅をして 小沢慎一郎…………… 17

日誌
文 理…………… 17
教 育…………… 18
経 済…………… 18
薬 学…………… 18
工 学…………… 18

職員住所
…………… 19

関係法令

法 律

- 第179号 国家公務員のための国設宿舍に関する法律の一部を改正する法律 33.12.23 官報
- 第15号 国立学校設置法の一部を改正する法律 3.16 〃
- 第79号 所得税法の一部を改正する法律 3.31 〃
- 第119号 一般職の職員の給与に関する法律等の一部を改正する法律 4.13 〃
- 第130号 文部省設置法の一部を改正する法律 4.14 〃

政 令

- 第341号 国家公務員宿舍法施行令 33.12.23 官報
- 第357号 国家公務員共済組合法施行令の一部を改正する政令 33.12.27 〃
- 第85号 所得税法施行規則の一部を改正する政令 3.31 官報(外28)

省 令

- 大蔵第68号 国有財産法施行細則の一部を改正する省令 33.12.25 官報
- 大蔵第69号 国の庁舎等の使用調整等に関する特別措置法施行細則の一部を改正する省令 33.12.25 〃
- 大蔵第73号 会計規則及び各特別会計規則の規定により調製することを要する帳簿の様式及び記入の方法並びに書類の様式に関する省令等の一部を改正する省令 33.12.27 官報
- 法務第2号 供託規則 1.7. 官報(外2)
- 文部第1号 学校基本調査規則の一部を改正する省令 2.17 官報
- 文部第2号 学校衛生統計調査規則の一部を改正する省令 2.17 〃
- 文部第4号 学校教員調査規則の一部を改正する省令 2.25 〃
- 大蔵第10号 国家公務員宿舍法施行規則 2.25 〃
- 大蔵第12号 国家公務員共済組合法施行規則の一部を改正する省令 3.2 〃
- 大蔵第13号 所得税法施行細則の一部を改正する省令 3.16 〃
- 大蔵第21号 日本銀行国庫金取扱規程等の一部を改正する省令 3.31 〃
- 文部第8号 文部省設置法施行規則の一部を改正する省令 4.1 〃
- 文部第11号 文部省設置法施行規則の一部を改正する省令 4.11 〃

富山大学 一六号

訓 令

- 文部第 1 号 学校基本調査実施要領の一部を改正する訓令 2.17 官報
- 〃 第 2 号 学校衛生統計調査実施要領の一部を改正する訓令 2.17 〃
- 〃 第 3 号 学校教員調査実施要領の一部を改正する訓令 2.25 〃
- 〃 第 4 号 事務局に部を置く国立大学及び事務部に課を置く学部等を指定する訓令 3.23 〃

規 則

- 会計検査院第 1 号 計算証明規則の一部を改正する規則 3.31 官報
- 人事院 2-3 人事院事務局の組織の一部を改正する規則 4. 1 〃
- 人事院 2-4 人事院の職員に対する権限の委任の一部を改正する規則 4. 1 〃
- 人事院 2-7 人事院事務局の職制の一部を改正する規則 4. 1 〃
- 会計検査院第 3 号 会計検査院法施行規則等の一部を改正する規則 4. 1 〃

告 示

- 文部第 91 号 印刷費、製本費、材料引取運賃及び製版費の標準単価を定める件の一部を改正する件 33.12.27 官報
- 文部第 26 号 学校教員調査規則の規定に基き教員調査を行う年度及びその期日を定める件 3.25 〃
- 調達庁第 4 号 国家公務員共済組合法第 11 条第 1 項及び国家公務員共済組合法施行規則第 3 条の規定に基き調達庁共済組合運営規則を定める件 4. 1 官報

法律施行通知

- 国税庁 昭和 33 年 3 月改正所得税法の取扱について 3. 3 〃

通 達

- 昭和 32 年度決算検査の結果、会計経理士注意を要する事項について (1.2 付国会第 292 号)
- 文部省発注、請負等契約規則(昭和 28 年文部省訓令)の一部改正について (3.28 付文会総第 269 号)
- 支負担行為に関する事務の委任等について (3.28 付文会総第 281 号)
- 才入徴収に関する事務および支出に関する事務の委任等について (3.28 付文会総第 282 号)

~~~~~  
**学 内 規 程**  
~~~~~

学生守則一部改正

第 9 条のうち、「身体検査」とあるを「健康診断」に改める。
第 10 条を削る。

「第 11 条」を「第 10 条」に改め、以下各条を順次に繰上げる。

付則に次の付則を加える。

付 則

この守則 (改正) は昭和 34 年 4 月 1 日から実施する。

事務組織規程の一部改正

第 23 条第 3 項中の「身体検査」とあるを「健康診断」と改める。

付則に次の付則を加える。

付 則

この規程 (改正) は昭和 34 年 4 月 1 日から実施する。

学部事務分掌規程の一部改正

第 4 条、第 36 項中の「身体検査」とあるを「健康診断」と改める。

付則に次の付則を加える。

付 則

この規程 (改正) は昭和 34 年 4 月 1 日から実施する。

薬学部規程の一部改正

1. 第 13 条を次のように改める。

第 13 条 在学期間を通じ一般教育課程及び体育については 63 単位以上、専門課程については 87 単位以上を履修するものとする。

2. 別表(1) 薬学部学科目及び単位数の中

- | | |
|-----------------------|---------|
| (1) 生物薬品化学講座の実習 3 単位を | 2 単位に |
| (2) 小計 (実習) 27 単位を | 26 単位に |
| (3) 合計 151 単位を | 150 単位に |

改める。

3. 付則に次の付則を加える。

付 則 (昭和 34 年 3 月 6 日改正)

この規程 (改正) は昭和 34 年 4 月 1 日から施行する。

文理学部教授会規程の一部改正

第 3 条 但し書のうち「教官人事」の次に「及び名誉教授の内申」を挿入する。

第 8 条 教官の人事及び名誉教授の内申に関して審議する会議は、構成員の 3 分の 2 以上が出席しなければ議事を開き議決することができない。議事は出席者の 3 分の 2

以上を以て決する。
第8条を第9条とする。
付則に次の付則を加える。
この規程(改正)は昭和34年2月4日から実施する。

各学部規程の一部改正

各学部規程の一部を次のとおり改める。
文理学部規程 第25条
教育学部規程 第14条第2項、第16条
薬学部規程 第32条、第33条
工学部規程 第12条
上記諸規程の条文中「身体検査」とあるを「健康診断」と改める。
上記諸規程の付則に次の付則を加える。
付 則
この規程(改正)は昭和34年3月16日から実施する。

学 則 の 一 部 改 正

第11章 専攻科
第56条を次の如く改める。
第56条 本学に次の専攻科をおく。
経済学専攻科 経 理 経 営 専 攻
薬学専攻科 薬 学 専 攻
工学専攻科 電 気 工 学 専 攻
工業化学専攻
金属工学専攻
機械工学専攻
第57条を次の如く改める。
第57条 専攻科の修業年限は1年とする。
第58条を次の如く改める。
第58条 専攻科の学生定員は次のとおりとする。
経済学専攻科 経 理 経 営 専 攻 10名
薬学専攻科 薬 学 専 攻 7名
工学専攻科 電 気 工 学 専 攻 5名
工業化学専攻 5名
金属工学専攻 5名
機械工学専攻 5名
第62条の次に次の一条を加える。
第62条の2 専攻科生には7条の規定のほか本学則中の規定を準用する。
付則に次の付則を加える。
付 則
この学則(改正)は昭和34年4月1日から実施する。

経済学部規程の一部改正

(経済学科)
第1条中「別表」とあるを「別表1」と改める。
第2条の次に次の1条を加える。

(専攻科)
第3条 経済学専攻科学生の学科課程は別表2の定めるところに従い必修科目18単位(演習4単位、研究報告6単位を含む)及び選択科目12単位以上、合計30単位以上を履修しなければならない。
付則に次の付則を加える。
付 則
この規程(改正)は昭和34年4月1日から実施する。

別 表 (2)
学 科 目 及 び 単 位 数

専攻科目	専 攻 名	学 科 目	単 位 数	
			必 修	選 択
経済学 専攻科	経 理 経 営 専 攻	経済政策特殊問題		4
		財政学特殊問題		4
		貨幣及び金融論		4
		特 殊 問 題		4
		景 気 論		4
		統計学特殊問題		4
		各国経済事情		4
		株式会社経営論		4
		公 企 業 経 営 論		4
		経 営 組 織 論	4	
		経営学特殊問題		4
		労務管理特殊問題		4
		財務管理特殊問題		4
		企業形態特殊問題		4
		経 営 史		4
		管 理 会 計	4	
		会 計 組 織 論		4
		会计学特殊問題		4
原価計算特殊問題		4		
民商法特殊問題		4		
経済法特殊問題		4		
労働法特殊問題		4		
演習及び研究報告		10		
計			18	76

工学部規程の一部改正

第2条中「別表」とあるを「別表1」に改める。
第11条の次に次の章条を加え、
第4章を第5章とし、第12条を第17条とし、以下順次繰下げる。
第4章 工学専攻科
第12条 工学専攻科に関しては学則に定めるもののほか、この条項による。
第13条 工学専攻科のコース、学科目及びその単位は別表2に定める。
第14条 学生は別表2に定める学科目について30単位以上を履修しなければならない。

第15条 入学者の選考は出身大学の調査書、学力試験及び健康診断による。

第16条 第1章（第1条、第2条を除く）第3章の規定は専攻科学生に準用する。

付則に次の付則を加える。

付 則

この規程（改正）は昭和34年4月1日から実施する。

別 表 2

工学専攻科学科課程

専攻名	学 科 目		単 位 数	
	コース	学 科 目	必修	選択
電 気 工 学 専 攻	第 一 コース	電 気 理 論	6	
		同 演 習 及 実 験	18	
		文 献 指 導	2	
	第 二 コース	電 気 機 器 工 学	6	
		同 演 習 及 実 験	18	
		文 献 指 導	2	
	第 三 コース	電 力 工 学	6	
		同 演 習 及 実 験	18	
	第 四 コース	通 信 工 学	6	
		同 演 習 及 実 験	18	
選 択 科 目	電 気 理 論 特 論		2	
	電 気 機 器 工 学 特 論		2	
	電 気 材 料 特 論		2	
	電 子 応 用 工 学		2	
	応 用 数 学		2	
	応 用 物 理		2	
工 業 化 学 専 攻	第 一 コース	燃 料 特 論	4	
		石 油 化 学 特 論	2	
		実 験 実 習 究	18	
		文 献 指 導	2	
	第 二 コース	有 機 合 成 化 学 特 論	4	
		有 機 化 学 特 論	2	
		実 験 実 習 究	18	
		文 献 指 導	2	
	第 三 コース	工 業 電 気 化 学 特 論	4	
		分 析 化 学 特 論	2	
実 験 実 習 究		18		
文 献 指 導		2		
第 四 コース	物 理 化 学 特 論 (第 1)	4		
	化 学 工 学 特 論 (第 1)	2		
	実 験 実 習 究	18		
	文 献 指 導	2		
選 択 科 目	有 機 工 業 化 学 特 論		2	
	無 機 工 業 化 学 特 論		2	

専攻名	学 科 目		単 位 数	
	コース	学 科 目	選択	必修
工 業 化 学 専 攻	選 択 科 目	物 理 化 学 特 論 (第 2)		2
		化 学 工 業 特 論 (第 2)		4
		応 用 数 学		2
		応 用 物 理		2
金 属 工 学 専 攻	第 一 コース	鑄 造 学	6	
		同 実 験	18	
		文 献 指 導	2	
	第 二 コース	金 属 加 工 学	6	
		同 実 験	18	
		文 献 指 導	2	
	第 三 コース	鉄 冶 金 学	6	
		同 実 験	18	
	第 四 コース	非 鉄 冶 金 学	6	
		同 実 験	18	
選 択 科 目	金 属 材 料 特 論		2	
	金 属 加 工 特 論		2	
	鉄 冶 金 学 特 論		2	
	非 鉄 冶 金 学 特 論		2	
	電 気 冶 金 学 特 論		2	
	応 用 数 学		2	
機 械 工 学 専 攻	第 一 コース	構 造 力 学	2	
		自 動 制 御 学	2	
		応 用 弾 性 学	4	
		金 属 そ 性 学	2	
		実 験 実 習 究	4	
	第 二 コース	工 作 法 特 論	4	
		そ 性 加 工 法	4	
		実 験 実 習 究	4	
		特 別 研 究	10	
		第 三 コース	伝 熱 特 論	2
	蒸 気 原 動 機		2	
	応 用 熱 力 学		2	
	実 験 実 習 究		4	
	特 別 研 究		10	
	第 四 コース	水 力 機 械 特 論	4	
流 体 力 学		4		
実 験 実 習 究		4		
特 別 研 究		10		
第 五 コース	計 測 特 論 第 一 部	2		
	精 密 測 定 特 論	2		
	弾 性 振 動 論	2		

専攻名	学 科 目		単 位 数	
	コース	学 科 目	必修	選択
機 械 工 専 攻	第 五 課	計 測 特 論 第 二 部	2	
		実 験 実 習	4	
		特 別 研 究	10	
	選 択 科 目	機 構 学 特 論		2
		機 内 燃 機 特 論		2

専攻名	学 科 目		単 位 数	
	コース	学 科 目	必修	選択
機 械 工 専 攻	選 択 科 目	精 密 加 工 特 論		2
		流 体 機 械 特 論		2
		機 械 力 学 特 論		2
		機 械 応 用 数 学 理 論		2

人事異動

現 官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日
	武 暢 夫	文部教官（富山大学助手経済学部）に採用する	1. 1
	村 沢 巖	技能員（教育学部農夫）に採用する	1. 10
	門 島 政 己	事務員（工学部）に採用する	2. 16
	牧 野 久 幸	”	3. 16
	沢 芳 昭	用務員（工学部事務見習）に採用する	”
	嶋 忠 雄	技能員（工学部工務員）に採用する	”
	小 笠 原 和 夫	文部教官（富山大学教授文理学部）に採用する	4. 1
	酒 井 立 夫	文部教官（富山大学講師薬学部）に採用する	”
	中 村 良 郎	”（富山大学助手文理学部）に採用する	”
	中 山 充	”	”
	石 黒 国 雄	”（富山大学助手教育学部）に採用する	”
	古 川 和 男	”（富山大学助手工学部）に採用する	”
	秋 元 国 男	事務員（附属図書館）に採用する	”
	佐 野 健 治	臨時筆生（薬学部）に採用する	1. 29
	千 田 富 子	”（会計課）に採用する	2. 4
	河 崎 輝 子	”（経済学部）に採用する	3. 23
	中 島 益 美	”（薬学部）に採用する	4. 1
	西 野 敦 子	”	”
	石 井 節 子	”（附属図書館）に採用する	4. 13
	椿 原 重 行	技能員（工学部工務員）に採用する	4. 16
	能 登 紀 彦	”	”
用務員（工学部作業員）	本 沢 健 二	工学部事務見習に配置換する	1. 1
”	森 田 は る	用務員（工学部作業員）に配置換する（定員内）	1. 16
文部事務官（会計課）	山 淵 保 明	文理学部に配置換する	1. 20
事務員（工学部）	高 岡 博	会計課に配置換する	”
技能員（教育学部農夫）	平 岡 幸 一	事務員（教育学部）に配置換する	2. 1

現 官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日
教授（経済学部）	土 生 滋 穂	富山大学経営短期大学教授に配置換する 富山大学経営短期大学部主事に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	4. 1
用務員（工学部事務見習）	本 沢 健 二	事務員（工学部）に配置換する	〃
助教授（経済学部）	植 村 元 覚	教授に昇任させる	2. 16
講師（文理学部）	藤 木 興 三	助教授（教育学部）に昇任させる	4. 1
事務員（庶務課）	小 林 武	文部事務官に任官させる	3. 1
〃（会計課）	島 倉 重 二	〃	〃
〃	石 黒 勝 夫	〃	〃
〃（文理学部）	森 慶 二	〃	〃
〃（教育学部）	高 松 正 雄	〃	〃
〃（経済学部）	森 田 隆 夫	〃	3. 1
〃（工学部）	藤 田 修	〃	〃
〃（附属図書館）	齊 藤 隆	〃	〃
技術員（施設課）	奥 井 信 夫	文部技官に任官させる	〃
用務員（文理学部作業員）	加 藤 藤 次 郎	休職の期間を昭和34年7月3日まで更新する	1. 4
事務員（薬学部）	高 森 恵 巳 子	休職の期間を昭和34年7月15日まで更新する	1. 16
〃（文理学部）	川 原 越 雄	休職の期間を昭和34年9月8日まで更新する	3. 9
臨時筆生（会計課）	松 浦 昌 美	辞職を承認する	1. 7
事務員（教育学部）	水 上 嘉 代 子	〃	1. 10
〃（文理学部）	荒 川 澄 子	〃	1. 15
教務員（文理学部）	岡 野 禎 二	〃	2. 28
技術員（工学部）	今 井 勇	〃	〃
臨時筆生（薬学部）	山 口 聰	〃	1. 28
教授（経済学部）	渡 植 彦 太 郎	〃	3. 31
講師（教育学部）	飯 原 藤 一	〃	〃
事務員（文理学部）	原 田 辰 之 助	〃	〃
〃（教育学部）	大 花 恵 貫	〃	〃
〃（附属図書館）	後 藤 年 生	〃	〃
教授（教育学部）	渡 辺 重 雄	退職した	〃
〃（経済学部）	小 寺 廉 吉	〃	〃
〃（工学部）	佐 藤 恒 義	〃	〃
講師（薬学部）	野 島 俊 二 郎	〃	〃
教授（教育学部）	溝 上 茂 夫	富山大学教育学部長に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする 富山大学評議員に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする	3. 31
〃（経済学部）	内 田 穰 吉	富山大学評議員に併任する 任期は昭和34年7月31日までとする	〃

現官職	氏名	異動内容	発令月日
富山大学長	梅原真隆	富山大学経営短期大学長に併任する 任期は昭和36年11月30日までとする	4. 1
教授(経済学部)	城宝正治	富山大学経済学部長に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする 富山大学評議員に併任する 任期は昭和36年3月31日までとする	〃
富山大学経営短期大学部教授	土生滋穂	富山大学教授経済学部に併任する 任期は昭和34年9月30日までとする	〃
	栗林定次部	講師(経済学部)に採用する 任期は昭和34年3月31日までとする	1. 16
	川合一郎	〃	1. 26
	玉林憲義	講師(文理学部)に採用する 〃	1. 28
	不敵貞春	講師(経済学部)に採用する 〃	2. 1
一橋大学教授	木村元一	講師(経済学部)に併任する 〃	33. 12. 1
京都大学助教授文学部	岸俊男	講師(文理学部)に併任する 〃	33. 12.14
京都大学教授理学部	上野益三	〃	33. 12. 17
教授(文理学部)	高瀬重雄	講師(教育学部)に併任する 任期は昭和34年1月16日までとする	1. 8
京都大学教授理学部	高橋勲	〃 任期は昭和34年3月31日までとする	1. 10
信州大学教授工学部	石田光夫	講師(工学部)に併任する 任期は昭和34年2月28日までとする	1. 11
教授(経済学部)	野崎富作	〃 任期は昭和34年3月10日までとする	1. 12
横浜国立大学助教授	宮崎義一	講師(経済学部)に併任する 任期は昭和34年3月31日までとする	2. 1
京都大学教授理学部	友近晋	講師(文理学部)に併任する 〃	〃
京都大学助教授理学部	福田国弥	〃	2. 25
京都大学教授理学部	石橋雅義	〃	3. 1
技術補佐員(薬学部)	高野嘉一	任用を更新する 任期は昭和35年3月31日までとする	4. 1
医員(文理学部)	福田博	〃	〃
〃	酒井義昭	〃	〃
〃(教育学部)	福田美明	〃	〃
〃	草島孫三	〃	〃
〃	小林金次	〃	〃
〃(経済学部)	内田重遠	〃	〃
〃(薬学部)	米村長敏	〃	〃
〃(工学部)	松田三知	〃	〃
〃(薬学部)	米村長敏	医員(富山大学本部)に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
講師(文理学部)	ヒュー・ブラウン	任用を更新する 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
文部事務官 (附属図書館薬学部分館長)	村上清造	富山大学助教授薬学部に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
	密田正吉	講師(経済学部)に採用する 任期は昭和34年9月30日までとする	4. 10
	原富慶太郎	講師(文理学部)に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	4. 13
	松倉博一	〃	〃
	野村芳郎	〃	〃

現 官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日
	沢 井 宗 隆	講師（文理学部）に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	4. 13
	尾 崎 進	〃	〃
	日 南 田 義 治	講師（薬学部）に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
	野 島 俊 二 郎	〃	〃
	米 村 長 敏	〃	〃
非常勤講師（文理学部）	尾 崎 進	講師（薬学部）に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	〃

綜 合 情 報

第 七 回 卒 業 式

毎年定日となつている、3月20日第七回卒業式と第九回修了式が黒田講堂で挙行せられた。昨年もそうであつたがことしも天候に恵まれ陽光うらかな卒業式日和であつた。

この日校門を巣立つもの、文理学部67名、教育学部129名、経済学部127名、薬学部76名、工学部88名の計487名であり、この他に教育学部第二中等科の修了生32名と薬学部の専攻生1名が加わる。来賓としては、新任早々の湊市長も顔を見せ、川崎県教育委員長、山森大学後援会副会長も列つたが、吉田知事が顔を見せなかつたのは、些か淋しい感じであつた。父兄の参列は子弟教育への関心の高まりを反映してか、昨年を上まわる数に上り予備した席を超えて立つ人が多かつたことが印象に遺つた。

式は卒業、修了証書授与に始まり終つて梅原学長から次のごとき饗けのことばがあつた。

学 長 告 辞

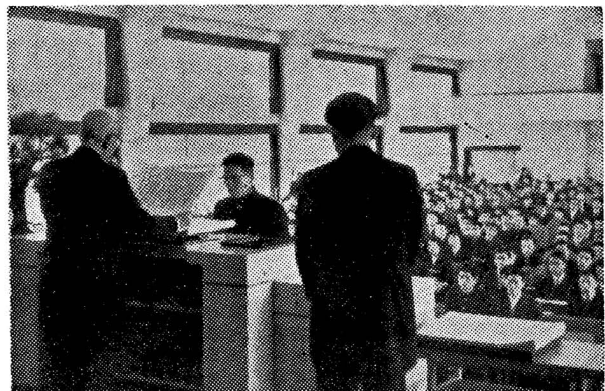
春光麗かにして立山連峯の秀容栄えるきょう第7回卒業及び第9回修了の式を行うことは慶びに耐えない。

こゝに553名の学生諸君は螢雪の功空しからず目出度く卒業或は修了さるゝことを心から祝福するとともに、これ等多数学徒の育成に尽された教官、父兄、その他の関係の方々に感謝するものである。

諸君は新しい教育基本法によつて教育を修めて最高学府を終えた国庫的存在である。力強く校門を立ち社会に出る諸君の一步一步に光と誇りあれと祈るものである。これで諸君は社会人となるのであるが、学校に卒業があつても、人生には卒業というものはない。社会は人生教室であり、職場、持場はそれぞれの意味をもつ人間錬成の道場である。真理の曠野は悠久に諸君の前途に開け、職場は扉を開いて諸君を待つている。さればこれで出来上つたという自負をもつことなく、これまでの大学における学習は人生の

基礎的工作であつて、今日以後活社会に立つ大切な門出の足場であることを銘記してもらいたい。これからも真理を探究する叡智と、真理を身につける熱意と、そして真理を主張する勇気を堅持してもらいたい。併しながら真理の探究者は常に謙譲でなくてはならない。青年はとかく血気にはやり自分であることををと思ひこむと盲目的になつてしもうことがある。そして反省をいとうて傲慢になりやすい。真理の追求にあつては、その真とし、正とすることが果して真であるか、また正であるかを再思三省すべきである。そしてより真実の世界に生きるよう努力すべきである。

諸君は心身ともに健やかな青年であり、洋々たる前途をもつ青年である。かゝる青年は前進するの特権と使命をもつ。この特権を忘れ使命を恐れては、人生の進化は停止し退転する。青年のみがもつこの特権と使命を十分に生かし且つ果してもらいたい。



奈良の法隆寺には知るゝ如く伏蔵がある。法隆寺が不慮の災禍に遭うことがあつても、この伏蔵の存する限り、その秘蔵する財宝はもつて法隆寺の再建を可能ならしめるに足るといわれている。翻つて伏蔵は人生にも、宇宙にもある。電源の開発も自然の伏蔵が蔵する力の開発であり、原子力の開発もまた宇宙の伏蔵が包蔵する無限の力の開発である。人類は今や歴史的転換の期にある。従つて今ぞ人生の伏蔵を開くの時でもある。諸君は人生の開拓者であり新しい歴史の推進者でもある。人生伏蔵の開扉の仕事はかゝつて諸君の双肩にある。この特権、この使命を誓つて果

してもらいたい。そして健やかに、力強く、二つとない人生を大切に、有効に送ってもらいたい。(聴取書文責筆者)

このあと大臣、知事、県会議長、市長、後援会長の祝辞が次々と述べられたが、これに対し卒業生、修了生一同を代表して教育学部第一初等科の雄川義勝君から答辞があり“螢の光”の演奏裡に式を終えた。

昭和34年度入学試験実施

昭和34年度入学試験は3月23、24の両日実施された。試験場は文理、教育、工学の3学部は夫々の校舎を、経済薬学の両学部はことしもまた施設の関係から前者は富山工業高校、後者は奥田中学が当てられた。昨年は試験日当日が地鉄のストライキ日に当たったので無用の不安と混乱を惹起したが、ことしはそのことなく順調に推移した。

募集人員685名に対して4.6倍の3,114人の志願者があったが、志願者中には例により両股も三股もかけている者があつて、結局当日は927名もの欠席者を出し受験実人員は2,187名に減じた。このうち合格者は629名で然かもこのうち更に両天秤組で棄権の者や、その他の事情での入学取消者が出来、その補欠繰り上げで、入学を許されたものなどの出入りがあり、結局595人が入学と決つた。かくて募集人員数と実入学者数との開きは90名に及んでいる。昨年の37名に比して著しい開きである。そのうちの7割以上は教育学部の減員であつて、今年も教員需要の悪情勢を反映している。その詳細内訳は次のとおりである。

学生募集人員志願者数及び入学者数 (前年度と対比)

学部	学 科	昭和33年度			昭和34年度		
		募集人員	志願者数	入学者数	募集人員	志願者数	入学者数
文理学部	文 学 科	50	190	48	50	196	46
	理 学 科	50	184	57	60	198	58
	計	100	374	105	110	394	104
教育学部	第一中等教育科	75	195	59	75	232	40
	第一初等教育科	70	219	66	90	253	59
	第二中等教育科	—	—	—	—	—	—
	第二初等教育科	20	41	12	—	—	—
	計	165	455	137	165	485	99
経済学部	経 済 学 科	160	913	141	160	654	142
薬学部	薬 学 科	80	884	82	80	680	80
工学部	電気工学科	40	266	43	40	228	40
	工業化学科	40	232	40	40	204	40
	金属工学科	40	117	40	40	200	40
	機械工学科	50	283	50	50	264	50
	計	170	898	173	170	901	170
	合 計	675	3,524	638	685	3,114	595

昭和34年度入学式挙行

本年度の新入生を迎える入学式は4月9日10時から黒田講堂で挙行された。昨年のこの日は快晴であり桜も恰度満開であつたが今年は1日早くなつているのに花も散り然も雨もよいの曇天であつた。併し昨年に優る多数の父兄を迎え多目に予備の座席も遙かに不足する賑やかさであつた。以前と違つて式場の近くなつた故もあるが、年々高まる父兄の大学教育への関心の高まりの故もあるであろう。定刻学長は各部局長を帯同式場へ臨んで、へき頭新入生に対し次の祝のことばと訓諭を行つた。

学 長 告 辞

本日茲に629名の新しく入学される諸君を迎えて第11回の入学式を挙行することは、わが大学のおおきなよろこびであります。諸君は新しい教育制度をとおして組織的な学修をつみかさね、その仕上げをなすために最高の学府まで進んできた優秀な学徒である。本学は敬いと愛をもつて諸君を迎える次第であります。

本学は大学令の示すとおり、諸君に高級な学芸的教養と専門的知識を授け知性と徳性を磨きあげ、縦横にこれを活かし得る能力を展開させるために全力をつくしてあります。諸君は富山大学の名誉にかけて、典型的な学生生活にいそまれることを希うてやみません。

第一、諸君は学生というめぐまれた地位を得たことを感謝し、自重していただきたい。おもうにこの慌しい人生において、この大学において何のわずらいもなく、真理と正義を愛し、学問と研究に身心をうちこむことのできる条件の整う学生という特別の時期と条件は、諸君の生活において再びめぐつてこないものである。故に諸君は学生というめぐまれた現前の生活を有効に活かすべきである。この学生生活を活かすか否かによつて、諸君の前途は設定される。諸君はいま厳かな人生の分岐点に立つていたのであります。

第二、諸君は大学の学生として規定された日々の課程について、傍目もふらず誠実に学習し研鑽せられることを希望する。人間のいとなみは多端であるが、諸君の現在は学生として生き伸びなくてはならないのである。本格的な学生生活、すなわち学問と教養に専念せられることを勧め。若々しい青年であるから周囲からいろいろ期待もよせられ、さまざまの誘惑も襲うてくるであろうが、これらのいきさつを一蹴し、毅然として純真な学生の品格を堅持していただきたいものであります。

第三、学生生活のかなめは勉強である。優秀な成績をあげる秘訣は努力ひとつである。エヂソンは云つた。天才というものは天の与える1パーセントの靈感と、自ら汗を流す、99パーセントの努力によつて形成されると。諸君はすぐれた天稟の才能にはこつて怠ることなく、いのちがけに勉強していただきたい。真理の探求に汗を流すものの前に

のみ真理はその素顔を示現するであろう。

最後に学問をするものはあくまで謙虚でなくてはならない。己を虚うして謙ることによって学問は大成するのであります。釈尊は茂つた林に入つて、一握の木葉を弟子示してささやいた。宇宙の真理は茂つた林のようである。私の学んだことは一握の木葉にすぎないのであると。味うべき言葉である。ベーコンはいつた。人間は賢明になればなるほどますます姿勢を低くして他人から学ぼうとすると。これまた意味ふかい述懐である。真理の曠野ははてしない。しかしその真理に入る門はいたるところにひらかれてある。諸君はあくまでへりくだつて、真理を探求せられることを希望して私の式辞に代える。

これに対し新入生を代表して工学部の中島正和君が答辞を述べた。

このあとオリエンテーションに入り武石学生部長から本学の機構ならびに新入生の心得について縷々総合的説明があつた。終つて本学生が組織する楽団の奏する歓迎オーケストラに聴き入つた。

なおオリエンテーションは次のプログラムによつて行われた。

4月11日(土) 各学部において

1. 学部、学科の紹介および科目履修方法等の説明。
2. その他学部において必要と認める事項。
3. 午後新入生健康診断。

4月13日(日)

午前(於文理学部) 一般教育課程履修の説明。

午後(於薬学部) 新入生 X線直接撮影。(第2日の健康診断の結果 X線直接撮影を要すると診断されたもののみ)

経営短期大学の発足

このことについては前号で年末に復活要求が認められ34年度予算に経費が計上せられ、予算面からの設置確定を報じておいたが、大学ではこの情勢に応じて富山大学経営短期大学準備委員会なるものを設け発足の準備にかかつた。一方既に提出の許可申請については大臣の諮問機関である大学設置審議会において審査が進められていたが、2月16日17の両日同会の佐々木、河西の両委員を派遣実地視察を行うなど曲折を経て3月31日付をもつて大臣名の許可を発するに至つた。

かくて大学は4月1日学生募集要項を発表し、要項の定め如く募集、出願、選抜の過程を経て5月10日には待望の入学式を挙行するの運びとなつた。その内容については次に案内書を掲げて紹介することとする。なお学長には梅原学長が、そして主事には土生滋穂教授が併任されることとなつた。

富山大学経営短期大学部案内

1. 目的および使命

本学は、教育基本法の精神に則り、経営を中心とする実務的専門的職業に重きをおく大学教育を施し、有為な社会人を育成することを目的とする。

2. 位 置

東山市五福3190番地

3. 施 設

本学は、富山大学に併設され、経済学部の施設を使用して授業を実施する。学生の食堂、自転車置場等の厚生施設については設備すべく計画中である。

4. 学科、修業年限および学生定員

学 科 経営科 第二部(夜間17時~21時)
修業年限 三 年
学生定員 入学定員 80名 総定員 240名

5. 授 業 科 目

(1) 一般教育科目

人文科学関係 歴史学、文学、心理学
社会科学関係 社会学、法学、経済学
自然科学関係 数学、統計学、物理学、化学

(2) 外 国 語 英語、ドイツ語

(3) 体 育 講義および実技

(4) 専 門 科 目

経済原論、工業政策、金融論、経済統計、経営学総論、財務管理、労務管理、生産管理、販売管理、中小企業論、商業学、交通論、商品学、会計学、簿記概論、工業簿記および原価計算、管理会計、経営分析、民法(総則・債権)、商法(会社)、労働法、安全管理、機械工学概論、電気工学概論、工業化学概論、図学、外国経営学文献講読、経営学特殊研究演習、

6. 学科履修の方法

一般教育科目については、人文、社会、自然の各系列4単位以上合計12単位以上、専門科目については、必修選択あはせて50単位以上、外国語については、英語6単位体育については、講義および実技2単位。総計70単位以上を修得しなければならない。

7. 学 費 そ の 他

(1) 授業料 年額7,200円(毎年前期4月中、後期10月中に分けて徴収)

入学金 1,000円

授業料は、事情により分延納の許可、または免除をうけることができる。(第一学年前期を除く)

(2) 学生は日本育英会奨学生の出願ができる。

選考の上採用されたものは、月額2,000円または3,000円(特別増額者)の奨学金が貸与される。

富山大学経営短期大学の昭和34年度学生募集要項

(一) 募集人員

経営科第二部……………80名

(二) 出願資格

次の各項の1に該当するもの

1. 高等学校卒業者
2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む)
3. 高等学校卒業者と同等以上の学力があると認められた者

(三) 出願期限

昭和34年 4月13日(月曜日)から
4月19日(日曜日)まで

(四) 出願手続

次の書類等を取りまとめて出身学校長から提出すること。郵便によるものは書留とし、封筒の表に「入学願書」と朱書すること。

1. 入学志願票 所定の用紙に必要事項をもれなく記入すること。
2. 写真票 1枚、所定の用紙に出願前6カ月以内に撮影した半身、脱帽、横約5糎、縦約7糎の写真をはりつけ、所要事項を記入すること。
3. 調査書 出身学校長が作成すること。
4. 健康診断証明書
本学所定の用紙により実地修練病院(医師法施行規則の規定による診療および公衆衛生に関する実地修練病院—大学付属病院および厚生大臣の指定した病院)または保健所の医師の診断したもの。但し、健康診断は昭和34年1月以降に受けたものに限る。
5. 入学検定料金1,000円現金又は郵便為替証書とすること。
6. 省略
7. 受験承認書 現在職に在る者はその所属長の、又他の国公立大学に在学中の者はその学長又は学部長の受験承認書を添付すること。

備考 試験検定による合格者は、当該試験の成績証明書をもつて調査書に代えることができる。

(五) 省略

(六) 入学者の選抜方法

入学者の選抜は学力検査、健康診断及び調査書の各成績を総合して行う。

1. 学力検査

次の3教科について、高等学校卒業の学力程度を標準として検査する。

国語科	国語(甲)
-----	-------

数学科	改訂教育課程の科目数学I(統計および空間図形を除く)旧教育課程の科目解析(I)のうちいずれか1科目を選択する。
外国語科	英語

2. 健康診断

4月26日(日)午後2時より診断を必要と認めた者について実施する。該当者の受験番号及び検査の詳細は学力検査終了後検査場に掲示する。

3. 検査日及び時間表

月日(曜)	時 間	検査教科
4月26日(日)	午前9時~同10時(60分)	数 学
	午前10時30分~同11時30分(60分)	外国語
	午後零時30分~同1時30分(60分)	国 語
	午後2時健康診断(本学において指定された者のみ)	

4. 検査場所

富山大学 富山市五福3190番地

(七) その他(抜粋)(2, 4, 5, 6, 8は省略)

1. 入学願書書類の提出後における「受験科目」の変更は許されない。
又一旦納入した入学検定料は如何なる理由があつても返却しない。
3. 入学決定後入学志願票及び健康診断証明書の記載と相違の事実が発見された場合は入学を取り消すことがある。
7. 合格者は5月2日(土)本学に掲示し、且つ、本人へ通知する。(電話その他による問合せには一切応じない)

備考 昭和34年度実施の学力検査科目等は暫定のものであり、昭和35年度以降は変更される見込である。詳細は追つて発表する。

経済学部および工学部の専攻科設置

これ等の設置については前号でちよつと触れておいたが何れも3月末次官名をもつて次のとおり正式許可の通知があつた。

経済学部

1. 専攻科名および専攻 入学定員
経済学専攻科 経理経営専攻 10名
2. 修業年限 1年
3. 開設時期 昭和34年度

工学部

1. 専攻科名および専攻 入学定員
工学専攻科 電気工学専攻 5名

工業化学専攻	5名
金属工学 "	5 "
機械工学 "	5 "

2. 修業年限 1年

3. 開設時期 昭和34年度

なおこれ等の内容については本学報の学内規程の経済学部および工学部規程の一部改正を参照されたい。

経済、教育両学部長の改選

土生経済学部長の任期は3月31日をもって満了となるので、後任者の選挙は2月19日午後1時から2時の間に同学部長室で行われた。その結果投票数20のうち18票を得て城宝正治教授が6代目の学部長に選ばれた。そして4月1日から就任した。

城宝教授は高岡出身、大正14年の東京商大出である。昭和2年母校高岡高商講師を振出しに教授となつて西洋経済史を講じ、殆んど同校で終始して来た人である。もつとも同校が工専と変るや一時上海大学に職を転じたが、25年に本学教授となつて今日に至っている。その間2年10カ月にわたつて独伊米に留学を命ぜられている。

渡辺学部長は来る5月31日をもって任期満了となるころこれに先だち定年制により3月31日退職となるため学部長は任期を繰上げて後任者を選定することとなり、これが選挙を2月25日午後1時から2時の間に同学部会議室において実施した。その結果溝上茂夫教授が有権者総数55名中の38票を得て当選した。発令は3月31日付をもつて行われた。

溝上教授は広島高師専攻科出身、昭和16年から21年まで北海道にあつて2,3女学校長や、工業専門学校講師を歴任の後22年に三重師範学校教授、次いで24年富山大学教授となつたものである。本大学においては2期にわたり付属学校長をつとめている。

鳥山初代学長の逝去

本学初代学長にして現東洋大学教授である鳥山喜一氏は胃がんのため2月19日東大病院坂田外科病室で亡くなられた。昨年10月開学10周年を機に大学の賓客としてお招きした際、昔に変わらぬ元気な姿を見せられた印象が昨日のように鮮やかであるだけに、そしてその病気について何も知らされていなかっただけにこの訃報は、晴天の霹靂であつた。

氏は大学開設の際、よき伝統を遺して行きたい方針から初代学長に大ものを、という設置委員の苦心の選考の選に入つた人である。またその経歴から見ても充分これに値する人であつた。即ち明治44年東京帝大卒業の後その年の9月早くも中央大学講師を囑託、他3,4の私学に関係したが、大正8年新潟高校教授、昭和3年には京城帝大教授となつて国立大学教官の軌道を進み、同大学の在職中には法文学部長、図書館長などを兼任し、終戦とともに21年第四高等学校長となつた。そして24年新制大学発足するや初代学長と

して招かれたものであるが、その際も金沢大学長事務取扱を兼ねていたことでその地位が推察できる。京城大学在職中は2年間、英、米、支へ留学を命ぜられているばかりでなく、その前後3回にわたつて満州に出張、史蹟の踏査資料の蒐集、はては発掘までなしている。叙上のおり、その在職のところどころにおいて学部長、図書館長、校長、学長などつぎつぎと要職を兼ねながらその専門分野においても数多くの輝かしい業績を遺している。即ち黄河の水や東洋史観のような啓蒙、教養を主眼とした概観、概説的なものや、満鮮文化史、渤海史考のような、氏独特の専門分野である満鮮の特殊歴史の研究に関するものなど10数巻の著書があり、他にも少なからぬ論作があることはまことに旺なりといわねばならない。

29年退職した後も東洋大学教授となり、図書館長をも兼ね、その上中央大学に出講するなど老を知らぬ活躍振りであつた。またかつては本学唯一人の学術会議会員であつたことも知られるとおりである。享年72才、逝去にともない正三位、勲一等の追叙の沙汰があり、祭染料をも賜わつた。昨年10月の来学を機として学長室に掲げた写真は計らずも故人の面影をしのぶものとなつた。遺族は東京都中野区宮里27に住わっている。

渡辺、小寺教授など4教官停年退職

昭和32年3月末から実施された本学の教官停年制によりさきに原富、曾根の2教授を送つたが、ことしは渡辺、小寺佐藤、野島の4教官を一挙に送り出すこととなつた。

小寺廉吉教授(経)

教授が本学教授に赴任せられたのは25年である。同教授は大正14年の創立当時から19年にわたつて高岡高商教授を勤めた人であり、それが縁となつて同校を基盤として出来上つた経済学部職を奉ぜられた訳である。大正4年の東京高商出身であつて、本学就任までは山口経専や、GHQに暫し籍をとどめられたこともある。また高岡高商時代には2年間欧米へ留学を命ぜられている。経済地理学を専攻し、その基本的研究は無論、濠州や満州、樺太の特殊地域に関する専門的研究、更には郷土の秘境五ヶ山や奥能登に实地踏査のメスを入れ、これを民族学的、経済学的に解明を加えられるなどその成果は幾多の論作となつている。今度の退職により、郷土の研究が中絶さるゝことなきかを惧れる。教授は資性まことに温厚、そして篤実、また人に親切であつた。その人柄から人や団体の世話を随分やかたようである。その世話の打ち合せ連絡によく内ポケットから大きな手帳を出して丹念にメモをとつておられた姿は誠実な教授の人物を象徴して、頗るまじしいユーモアさへ感じさせたものである。30年に3代目学部長を勤められたが、命令する学部長としてより奉仕する学部長という感を深くしたものである。学部長在任中もその地位に驕ることなく多忙のうちにも他学部の併任を諾々として引受け、雨の日

雪の日も老体を厭わず出講せられた姿が強く印象に残っている。

教授のお兄弟には芸術家あり大学教授があるが、洋画「光風会」の重鎮小寺健吉氏は教授の実兄であることは知る人もあろう。併し文学座の俳優でNHKの放送劇や映画特に「生きる」「彼岸花」に出演の中村伸郎氏が教授の実弟であることは殆んど知るまい。知つて驚くであろう。

退職後の教授はこのたび発足の桃山学院大学教授に就任大阪府下牧方市香里ヶ丘二丁目（香里A）第16号5号に住居されることとなつた。

渡辺重雄教授（教）

教育学部渡辺教授の兼任する学部長の職が5月31日満了となるが、その前に停年に達し3月31日をもつて退職となり、同時に部長も解任となつた。教授は前任現早大教授長谷川亀太郎氏のあとを受けて、学部長を重任すること3回に及んだ。そして学部長の現職のまま退くという今後も少ないであろうケースに該当する最初の人である。教授は静岡県の人、大正12年東京帝大農学部教員養成所の出身であり爾後特殊実業教育の教員養成機関の教員や長を勤めて、昭和15年戦局の緊迫を告ぐる頃から事務関係に転じ、地方事務官や課長を勤めている。終戦後教職に復し、鳥取青年師範学校長となり、22年、富山青年師範学校長に転じて来たものである。かく職歴の示すとおり学究というより教育行政者として終始して来た観がある。事実各地に在職中も本職の他に種々な教育実業文化の諸団体の役職を兼ね、本大学在職中も、職業、農業、労政の諸団体に関係して盛んに活躍していた。人となり、剛毅にして、信念強く、積極的実行型の人であつた。行政手腕を最も要する教育学部長としては蓋し適材であつたろう。事実学部長として3期連続6年間を勤めていることはこれを物語るものであろう。そしてその間地元大学設置同盟会の強力な助力によるものとはいえ、焼け残りの兵舎から今日の外容を整えたことの功は贅えるべきであろう。その学部運営の多忙の裡にも教育や農業の論作をものしているが、特に压榨機や豆腐製造機に関する新考案をなしているのは珍とすべきである。退職後はひとまづ郷里静岡に退かれるが、東京に出られるとも噂されている。併し教授にとつては富山は令閨を不慮の事故によつて失われた忘れ得ぬ土地であろう。

佐藤恒義教授（工）

佐藤教授は在職僅かに2年7ヶ月で停年退職となつた方であるから、離れた場所での勤務も手伝つて、知らない人が多いであろう。四国高松の産、大正7年の九大出身である。卒業と同時に同大学の講師を嘱託し、9年には助教授に昇格、爾來25年間同大学で冶金学を講じ昭和11年に退職している。この間昭和2年には理論冶金学研究のため2年間独乙留学の尊い経験をもつていられる。九大退職後渡満し

てハルピン大学教授となり冶金学科長を勤めたりしたが、不幸終戦となり、まもなく、国共戦の渦中に捲き込まれ中共側に留用の身となつて、佳木斯、鶏西、通化、吉林などを転々、鉦業関係の調査や技術者の教育に当らしめられた。その後瀋陽に移されて旧奉天製煉所の復旧などに従事していた。そして28年帰国、当時社運の盛んであつた不二越鉦業に招へいされたのが縁となつて、31年本学講師、翌年教授となり、金属工学第4講座を本拠として冶金学を講じて来たものである。

中共の抑留生活8年にわたつたことは教授にとつて貴重な人生経験であつたかも知れぬが、学究としては不運であつたと申上げていいであろうか。もともと温厚なお人柄は異境の労苦で磨きがかかり、人触りのいい好々爺を形成し人々に敬われ、親しまれた。退職後は郷里高松市藤塚町30の自宅の令息の許に落ちつかれる。

野島俊二郎教官の退職

野島講師は富山市の生れで本年65才、講師は富山県立薬学専門学校を卒業されてから暫らくの間、東京帝国大学医科大学に勤務されたが、大正5年母校である富山県立薬学専門学校に赴任されてから一意教育に専念された。この間富山薬学専門学校の教務課長として20有余年のながい間また、大学に転換後は、教授会の幹事並びに各種学内委員会委員として教育、運営面に尽された功績は大きなものがあり、先生の温厚篤実な性格と共に各人みな敬仰するところである。

講師は、今後富山市南新町の自宅において自適の生活をされるやに聞く。（奇）

渡植教授の退任

経済学部渡植彦太郎教授はこのたび招かれて横浜の私立神奈川大学へ転出されることとなつた。同大学には既に先輩大熊信行氏が教授として在任せられており、これが転出の直接誘因となつたようである。教授陣容の強化充実が強く要望せらるる折から教授の如き材を失うことは傷手というべきであろう。教授は昭和26年阿部政太郎教授（文）新潟大学転出のあとを受けて赴任せられた方である。大正13年の東京商大出身で、昭和16年横浜市立商業専門学校に教鞭をとられたこともあり、これもこのたびの転出の遠因をなしているようである。併し大正の末年からこの年にいたるまで17年間も外地の空気を吸われた故か、どこか国際人的スケールを有し、潤達明快さをもつていられた。生粋の江戸つ子であることも一因であるかも知れない。この性格の然からしむるところ、その豊かな学殖と相俟つて30年には学生部長に、そしてまた31年には経済学部長に推されている。また学外では新聞執筆の同人となり、放送では解説評話、対談、座談と出演活躍し、大学の対外PRに大きな役割を演じている。社会学を専門として、学内理論派の雄

であつた。教授は東京日本橋小網町の産であるが、先祖は蔵前の札刺業者ときく。されば江戸つ子中の江戸つ子である。その彫りの深い風ぼうにも江戸つ子の面影があつて、これが郷土彫刻家であり、本学の講師である小柳津三郎氏の芸術眼のとらえるところとなり教授をモデルに胸像をものしているほどである。

飯原講師の退職

教育学部飯原藤一講師はこのたび願出により3月31日付で退職せられた。

同講師は砺波の人、大正11年日本武徳会武道専門学校を卒業して以来剣道の「教士」として活躍して来た人である。文理学部の前身富山高校尋常科の教諭に就任したのは昭和16年であつて、それから大学に移つて今日まで18年である。併しそれ以前大正15年に薬学専門の剣道師範を囑託しているからこれを通算すると33年もの長い間になる。尤もこの富山高校が国へ移管の際は一旦廃職となつたが、直ちに薬専の講師囑託、次いで講師となり24年に本学講師となつて今日に至つている。講師は剣道師範としては県下の最高峰であつて随分活躍されたが、終戦を契機として、柔剣道、特に剣道が軍国主義に結びつけられ、学校の正科として排せきされた為去就に迷われたようである。併しその後柔剣道は漸次復調を見せて来たが、大学の正科としての復活は昔日の如く望むべくもない。同講師の職を去られたのもここに因由するものであろうか。同講師の如きはその勤務場所の前身、後身を合せ考える時は、本学の主の一人であるが時流の容るところとならず、停年をまたずして退職せらるるに至つたことには御同情を禁じ得ない。但し今後はフリーの立場で斯道のために却つて活躍さるるものと信じている。

佐藤講師の転出

教育学部佐藤好孝講師は4月16日付をもつて長崎大学助教授に昇任転出さることとなつた。同講師が本大学に就任されたのは30年11月である。それまでは同学部の職業科には商業なる講座があつたが専任の教官が居なかつた。従つて同講師は初めての専任教官という訳である。同講師が

本学に来られたのは、故高光教授や、同講師の出身校である神戸経済大学教授であり、本学の併任講師である久保田音二郎氏の推ばんによるものである。同講師は神戸経済大学以前に早稲田大学に学んだこともある。岡山の産、まだ29の若さであり、職歴とても大阪府下の高校教諭を勤めただけで、これからという人であつた。なかなかの勉強家であり専門雑誌等に発表の論作も少くない。やがては会計学の本拠である経済学部へ転じて本学教官として大成さるべき日を期待していたのに在職僅かに4年でこの転出は惜まれる。
(長崎大学経済学部)

原田、大花氏等の退職

1月から本学報締切までの退職者は実に15名で4月末に退職予定の人々を加えると20名を越えるであろう。異動期を含めたかかる期間にかゝる大量の退職者を出すことは今度が初めであろう。このうち停年制による教官退職は別記のとおりであり、転出や願出による退職教官についても別記したが、他は老齢によるもの、家事一身上の都合によるもの、などさまざまである。

なかでも老齢のため退職せられた原田辰之助氏(文)の如きは年69才、勤務年数も富山高校時代を通算して20年の長きに及んでいる。恐らく事務職員中の最古参者であつたらう。郡、県の書記から転じた人である。囲碁をよくし学内の横綱格であつた。また柔道も段ももちで、これで鍛えた体軀は堂々として、壯者も及ばぬものである。大花恵貫氏(教)は68才、これもかくしやくたるものであり、原田氏と同様身心ともに餘力を残しての勇退といつていいであろう。氏は富山市役所から師範へ転じた人で、市役所時代は兵事課長や西部出張所長をつとめた人であつた。

(人事異動欄参照)

大浦彦吉助手(薬)の学位取得

薬学部製薬学教室の大浦彦吉助手は、京都大学へ論文(mycolic acid及び類縁化合物の合成研究)を提出して学位請求のところ、3月6日付薬学博士の学位を授与された。(寄)

昭和33年度卒業、修了学生就職状況

(昭和34年3月20日)

学部	学 科	卒業生数	進学家事 従事者数	就 職 状 況			備 考
				希望者	決定者	比率%	
文理学部	文 学 科	44	6	38	15	39	教員採用決定は四月以降の予定
	理 学 科	23	5	18	12	66	
	計	67	11	56	27	48	
教育学部	第一中等教育科	65	0	65	0	0	教員採用決定は四月以降の予定
	第一初等教育科	64	2	62	0	0	

学部	学科	卒業生数	進学家事 従事者数	就職状況			備考
				希望者	決定者	比率%	
教育学部	第二初等教育科	32	7	25	0	0	教員採用決定は四月以降の予定
	計	161	9	152	0	0	
経済学部	経済学科	127	14	113	111	98	
薬学部	薬学科	76	14	62	62	100	
工学部	電気工学科	28	1	27	27	100	
	工業化学科	26	1	25	25	100	
	金属工学科	18	0	18	18	100	
	機械工学科	16	0	16	16	100	
	計	83	2	86	86	100	
合計		519	50	469	286	30 教育を除く	

レクリエーション便り

富山地方公務員連盟

バドミントン大会

3月27日(金)市内中島なる興国人絹バルブ体育館で催された。本種目はR連盟で初めて採用したものである。初めての故か出場官庁も6ヶ所、チーム数は16という淋しさであった。本大学の出場チームは4であるから全体の4分の1を占めるという訳である。本学の出場チームの多いこともさることながら、業も他を抜いてまさに独走の感があり1位から3位までを獲得した。この日会場となつた興国人絹の体育館は従業員700を要する工場としては素晴らしく立派なものであつた。22坪の2階を含めた延坪数実に400坪に垂んとし、ステージ、休息室、控室、運動具の格納室、シャワー室など完備した至れり尽せりのものであつた。当日もコート4面をとつてなお綽々たる余裕を残している。施工費も3,000万円ということであつた。体育を教科としてもつ大学にも垂涎おく能わぬものである。

囲碁、将棋大会

2月27日神通川べりの県職員会館で催され、囲碁は団体戦と個人戦を将棋は個人戦のみを行つた。囲碁の団体戦には3人一組のチーム21、(13機関)が出場し、ブロック別リーグ戦を行つて優劣を争い、その勝者6チーム間でトーナメントによつて優勝戦を行つたが、本学から3チーム出場して次勝と3位を獲得した。優勝は建設省工事事務所の得るところとなつた。

個人戦は団体戦における最高勝率者10名の間で行われこれに薬学部の藤波氏が加わつたが惜しくも逸勝した。

将棋戦は15名9機関が出場したが本学からは3名加わり3名とも勝を逸した。優勝は郵便局員が獲得した。

学部情報

文理学部

文理学部の卒業生就職概況
について

文理学部今春卒業生の就職状況は別表のとおりである。

今年の景気は良くない。就職の見透しは楽観を許さない状況にある……と、いうことで求人件数も初め危ぶまれていたが、此処数年の就職開拓の努力が実り、昨年に比べて倍以上も件数があり、あらたに求人申込を受けた有力会社等が数十社もあつた。とくに理学科の数学、物理学、化学は時勢の流れに要求されて多きにのぼる盛況を得た。

今年の特徴は大学卒業生が積極的に、安心して中小企業へ進出してゆけるよう就職指導をした結果、たくましい学生の就職意欲を盛り上げ中小企業会社へ相当数が入社したことである。また、毎年問題になるのは女子の就職が、男子に比べて求人件数が少なく、雇用条件が悪くその上女性なるが故に、どんな職場でも進むわけにいかないことなどが、女性の就職難を更に深刻なものにしていることであるが、ことしは別表の如く女子の一流会社への就職が目立って来ている。

なお未就職者も数名いるが、大体五月末頃までには全部就職ができる見透しである。(寄)

卒業生就職概況

(文理学部)

昭和34年3月卒業生数 67名

文学科 44名

専攻別	男	女	計	就職希望数	家事	進学	就職決定数	未就職数
哲学	1	0	1	0	0	1	0	0
史学	7	1	8	5	0	3	4	1
国、中文学	7	4	11	11	0	0	7 ^{内女子(4)}	4
英文学	6	12	18	14	3	1	10 ^{内女子(8)}	4
ドイツ文学	4	2	6	1	1	4	1	0
計	25	19	44	31	4	9	22	9

理学科 23名

専攻別	男	女	計	就職希望数	家事	進学	就職決定数	未就職数
数学	3	0	3	3	0	0	3	0
物理学	4	0	4	3	0	1	3	0
化学	9	2	11	9	1	1	7	2
生物学	4	1	5	2	1	2	1	1
計	20	3	23	17	2	4	14	3

薬学部

教官の受賞

1. 横田薬学部長は、4月7日大阪市毎日会館で開催された。日本薬剤師協会総会に下記のとおり日本薬剤師協会賞を授与、表彰された。

記

賞 状

横田嘉右衛門殿

多年薬学教育に従事せられると共に地方薬剤師会長としてその発展に尽瘁せられた功績顕著なものがあります

ここに日本薬剤師協会賞を贈呈してその功勞を顕彰いたします

昭和34年4月7日

日本薬剤師協会

会長 高野 一夫

2. 薬学部の北川晴雄教授は、富山新聞社より3月11日下記のとおり文化賞(学術賞)を授与、表彰された。

記

表 彰 状

学術賞 富山市稲荷元町

富山大学薬学部教授 北川 晴雄 殿

クマリン誘導体の薬品的研究は世界の医薬品応用範囲においてきわめて貧困なものであつたためこれが解明に全精魂を打ちこみ化学構造と鎮静催眠の関係アイトープの利用による体温降下作用の反応度合と分布量解熱効力など深奥な研究成果はわが国医薬学界はもとよりアメリカ、イギリス、フランス、ドイツなど先進医学界にも驚異的反響をもたらし、人類文化の向上に寄与した功績きわめて大なる

ものがある。

よつて本年度富山新聞文化賞選定委員会の議を経て同文化賞第21号に登録しここに表彰する

昭和34年3月11日

富山新聞社社長 嵯 峨 喬

特別寄稿

クマリン誘導体の研究

文理学部 川瀬 義之

筆者の属する化学第二研究室(有機化学)では、福井教授を中心として数年来主として含酸素複素環式化合物たとえば、フラボン、イソフラボン、ベンゾフラン、ベンゾピロン等の誘導体について、合成的な研究あるいは性質や構造の研究等を行つて来た。またこれらの化合物の生理作用薬理作用についても多大の関心を持つてきた。

その内の一つの一連の研究として、フラン核あるいはピロン核を持つたフラボン類およびイソフラボン類の研究を行い、これらの化合物の新しい有利な合成法を考案した。この方法を用いて、天然に存在する珍しいフラン核を持つたフラボノールである「カランジン」の新合成を行つた。また2・3のフラノイソフラボンの合成も行つた。その内の1種は印度のセサドリ教授(この分野の世界的大家)も別の方法で作つている化合物で、両者間の相違等もあり問題が残つているが我々は自信を持つている。その他、ピロノイソフラボン類、インテクトリゲニン等の合成的研究も行つた。

又一方別の一連の研究として筆者は、デスオキシベンゾイン類(イソフラボン類合成の重要な中間体)や四一オキシクマリン類の新しい有利な合成法を研究し発表した。この四一オキシクマリン類は生理作用もいちじるしく、研究および実用的に興味深い化合物で薬学部の北川教授の所でも研究されている。この新合成法は反応段階も少く操作も簡単で収量もよい。更にこの方法を複雑な四環性の化合物であるクマリノクマロン類の合成にも拡張する事が出来た。このクマリノクマロン類は2年程まえから初めて登場した化合物で、天然物としては3種類がとり出されている。

その内の一つである「クメストロール」はクロバー(Trifolium repens)等の牧草中の女性ホルモン作用(催乳作用等)物質として、アメリカのピコフ氏等によつて研究された化合物で、合成的研究も筆者と殆ど同時に行われ私信によれば現在も類似化合物等について研究が行われている様である。筆者も前述の様にこの系統の化合物の新合成法、性質、構造等の研究を行つていたので、早速この「クメストロール」の合成に適用した所、二段階の反応で容易に合成する事が出来た。この化合物あるいは類似の、

より簡単な化合物を飼料等に混入する事により乳牛の生産性を高める等の事も考へられ、実用的にも興味深い。またこの系統の化合物は強い蛍光を発し、その面への発展にも興味を持たれる。

ソヴィエトに旅をして

教育学部 小沢慎一郎

こんなにも、と思う程偏見をもつて眺められ、考へられている国、「ソヴィエト」。過日富山であつたソヴィエトでの、文化使節「イワン・ペトロフ」の独唱会を聞いたさる学生が語つて『先生とてもすばらしかつたねえ、ほんとうに聞いてよかつた』と……そしてつづけ『ところが僕が聞いてきたのを知つた近所の人達が「あんた赤にかぶれたがぢやないがかいね」といわれて困つてしまつた』と……。さらに加へ『でもほんとうに聞いてよかつた』と。私も聞いた一人だが、このような会話が未だになされている事実について特と考へてみる必要があるだろう。いかに主義、主張が違ふとはいえ、これではこれから文化国家として生成発展する国とはいへないのではなからうか。ところが私が訪問したラトヴィヤ共和国の首都リガでは日本について『はらきり』『富士山』『ばんざい』ししか知られていない情けなさ。時間的にも空間的にも世界が縮まつている今日、もつとお互いが正しく理解し合う努力が大切だと思われる。

“外国に洋行”とか“外国人”“西洋人”とかの言葉の意味、考へ方などが無意識の中にいだいている外国崇拜の感情から、ある一種の自己卑下のような劣等感などがわざわいしている人達があまりにも多いのに驚かされる。どんなに小さいことでも、それらの一つ一つに自信と誇りが満たされていたとしたら、その積み重ねからは恐らく偉大な力が湧く筈であり、またそれがたとえどんなに苦しいことであつても前途に明るい生甲斐が感じられれば、一歩、一歩踏みしめ耐えられる力も滲みでてくるものといえよう。これらの動きに好ましい状態を持続させるのが政治であり、豊かな価値づけは教育の力によつて成しとげられるものだ。と考へたりしながら、ソヴエトが重要視している極東唯一の不凍港ナホトカ港のすばらしい建設と躍進ぶりを思い浮べながら、ハバロフスクまでの汽車の客となつた。あの広大な国土と、程よい人口、それに無盡蔵な資源、この三つのバランスこそ“国の力”を形成する素材といえよう。ハバロフスクの空港の軍用機や、ナホトカ港に浮び、沈みしていた潜水艦などが滑稽に見え、ぼやけてしまう程にシベリヤ鉄道沿線の大開発が進んでいる。科学の粋を集めたジェット旅客機で、1万3千メートルの成層圏の飛行は実に快適でバイカル湖が水だまり、鉄道が白毛、河が鉛の延棒の曲り大森林を含む山脈がちりめんの穀に見え月も星も窓越しに左右に眺められるなど実に不思議な白日夢の世界を行くといつた旅であつた。ハバロフスク、モスコウ間9千軒を9時

間でゆき、5時間の時差で昼夜の区別が乱れ日記の記入に困つた。モスコウ・レニングラードは東京と京都といった感じで、それぞれなりの個性が近代的感觉で処理され、独特な都市景観を示しているのが面白い対称である。あちこちの美術館、博物館により過去の国の歴史を語り、農業、工業博覧会で各共和国競つて今日の繁栄と将来の飛躍を示し、いろいろな手法で国民に誇りと自信を植えつけている。レニングラードの冬の宮殿、夏の宮殿を見ただけでも日本の東照宮の比でなく、泌じみと革命の必然性が理解されるように感じた。祖国の建設が進めば自分達の生活がどのように楽になるか、その日その日の日常生活に具体的な形で現れてくるから、国民がこぞつて積極的に勤労作業を通じて“協力による集団主義”に徹し“友情からの相互援助”に喜びと悲しみを分かち合いながら国家に奉仕しているのだ。ある晩だつたピョネール少年団が夏の勤労作業を終え、歌声高らかに行進して帰るのを眺めたのが思い出される。あの有名なモスコウの地下鉄が青年団の手によつて建設されたことだけでも、国の性格が違ふとはいへ考へさせられる。自然公園、緑の並木、花壇などの行届いた管理はヨーロッパ屈指とのこと、道路は毎朝撒水車で洗われ、掃除自動車絶えず動いていて塵一つない清潔な街がこのようにして作られているのだ。すべてが教育にかかり、真の国力の伸長は高度に展開する教育活動によつてのみ達成されるのである。保育所、托児所、幼稚園から小・中・高・大学にいたる流れを見学したが、躍進するためには豊富な資源を、高等な技術によつて活用せねばならない訳で、ソ連邦経済発展7ヶ年計画を見ても、その膨大な意図の中に国民教育の整備、充実、科学と文化の発展が重要な事項に強調されている。レーニン丘に聳え立つモスコウ大学の偉容や、高層建築を誇る外務省、勤労者アパートのように形の大きさを示す国力の表し方がもう過去の語り草となり、実質的な内容の充実がこれからの段階であるようだ。私がこの目でまざまざと見、触れ、全身で感じたことは“偉大な国”として名実ともに世界に臨む態勢を確立することに着々と国民の一人一人が光榮ある誇りを感じ合いながら、躍進を信じ総力を挙げている……と。

日誌

文理学部日誌

- 12月2日 岩瀬地区官公庁野球大会
優勝戦(文理学部優勝)
- 15日 冬季休業
- 1月10日 学部冬季レクリエーション大会 カルタ大会
- 12日 後期第11週講義開始
- 17日 学部冬季レクリエーション 将棋大会
- 21日 講演会(一般教育自治会主催)

- 1月22日 学生との懇談会
 23日 県教委との就職に関する懇談会
 24日 学部冬季レクリエーション お茶の会
 2月7日 学部冬季レクリエーション
 バトミントン, 卓球大会
 17日 昭和33年度授業終了
 18日 期末試験開始
 3月13日 野畑嘉作氷見市助役(外3名)
 学部長外生物学関係教授と懇談
 4月7日 春季レクリエーション
 職員組合主催(於草津鉱泉)
 11日 文理学部新入学生に対するオリエンテーション
 並に身体検査
 13日 前期授業開始(昭和34年度)
 一般教育オリエンテーション

教育学部日誌

- 1月10日 } 冬季認定講習
 3月1日 }
 1月12日～1月16日 冬季大学体育研究集会(管平)
 1月17日 中部日本学生スキー選手権大会(細野)
 1月21日 教授会
 2月3日～2月5日 中学校音楽科実技講習会(岐阜大)
 2月6日～2月7日 全国音楽教育研究大会(山形大)
 2月8日 通信教育週末考査
 2月11日 教授会
 2月17日 付属小学校入学試験
 2月18日～2月26日 教育実習(付属小学校)
 26日反省会
 2月19日～2月20日 新入園児検査(男児)19日
 (女児)20日
 2月21日 付属小学校入学者抽せん小教研十周年記念式
 “ 教授会
 2月22日 付属中学校入学試験
 2月25日 学部長選挙
 3月3日～3月5日 中学校音楽科実技講習会(岐阜大)
 3月10日 付属中学校第十一回卒業式
 新二, 三年生教科書販売
 3月13日 教授会
 3月17日 付属小学校卒業式
 3月18日 付属幼稚園終業式,
 3月19日 学窓会入会式
 3月31日 渡辺学部長送別会
 “ 昭和34年3月31日を以つて通信教育講座を廃
 講した。
 4月6日 授業開始
 8日 教授会
 9日 入学式

- 4月15日 教授会

経済学部日誌

- 1月9日 教授会
 12日 後期授業再開
 13日 学部医員羽田昌三氏死去
 19日 教務委員会
 22日 教授会
 28日 北陸電力社員採用試験(中卒予定者)に4番
 教室開放
 29日 教務委員会
 2月4日 鉄道機器, 吉田社長来部, 野崎, 横山ゼミ学
 生と会議室で座談会開催
 5日 教授会
 14日 後期授業終了
 17日 経営短期大学部実地視察のため本省から佐々
 木八郎氏他2名の調査員来部
 19日 学部長候補者選挙を執行, 城宝教授当選
 教授会
 3月5日 後期試験終了, 教授会
 19日 教授会
 30日 教授会
 4月2～3日 北陸電波管理局の無線従事者, 国家試験
 に4, 5, 6番教室開放
 7日 学部職員観桜会 呉羽山よしき荘
 9日 教授会
 10日 渡植教授白山号で離富

薬学部日誌

- 1月14日 薬学部教授会
 27日 千葉大学薬学部事務長池田馨氏来学
 2月7日 卒業生豫饗会(富山市公会堂において)
 18日 薬学部教授会
 19日 科学技術庁原子力アイソトープ課
 松友課長補佐来学
 25日 薬学部教授会
 “ 文部省予算班竹崎, 前田事務官来学
 3月4日 薬学部人事教授会
 13日 “ 教授会
 30日 薬学部教授会
 4月1日 文部省教育施設部名古屋工事事務所奥村睦・
 梶野一郎技官来学
 3日 薬剤師国家試験学説試験(当学部において)
 11日 薬学部オリエンテーション, 新入学生健康診
 断
 13日 薬学部教授会

工学部日誌

- 1月8日 教授会

- 1月28日 教授会
- 2月9日 文部省管理局田中教育施設部長来学
- 11日 教授会
- 18日 ”
- 21日 卒業生送別ダンスパーティ
- 28日 予餞会
- 3月9日 電気化学協会講演映写会
- 9~10日 金属学会北陸支部講習会
- 17日 機械工学懇談会
- 4月8日 専任教授会
- 11日 オリエンテーション
- ” 入学許可者健康診断

本部庶務日誌

- 1月5日 新年祝賀会
- 23日 文理学部を置く大学の学長会議(静岡県菲山)
- 30日 評議会
- 31日 補導協議会
- 2月6日 大学設置審議会副会長古林神大学長来学
- 7日 教育委員会主催特殊教育80周年記念講演
学長出席(10時30分 公会堂)
- 9日 文部省田中教育施設部長来学 付属学校、工学部を視察
- 10日 } 東海北陸地区会計課長会議(三重大学)
- 11日 }
- 14日 付小、付幼 願書締切
- 16日 就職懇談会
- 17日 短期大学部実地視察、佐々木、河西委員来学
- 27日 本省岡田、伊部、辺見、事務官(大学課)来学
- 28日 事務局長会議(34年度予算関係、本省)
- 3月5日 本学部職員血圧検査
- 6日 評議会、短期大学部準備委員会
- 7日 短期大学部募集要項案発表
- 8日 金尾元庶務課長(現小学館)来訪
- 11日 国立学校設置法改正案(短大関係)通過
- 12日 事務協議会、高知大学庶務課長来訪
- 16日 補導協議会 評議会
- 20日 卒業式 黒田講堂
- 23日 } 入学試験
- 24日 }
- 30日 評議会
- 31日 入学試験合格者発表
- 4月1日 短期大学部学生募集公示
- 8日 本省島崎事務官(学術局)来訪
- 9日 入学式 黒田講堂

職員住所

住所変更

- 文理学部
- 種 節子
- 平田 純
- 経済学部
- 武 暢夫
- 内田 稷吉
- 高倉 弘一

新任者住所

- 工学部
- 吉川 和男 助手
- 牧野 久幸 事務員
- 嶋 忠雄 技能員
- 沢 芳昭 用務員

人 事 異 動 (4月16日以降追加分)

現 官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日
	大 坪 清 彦	用務員(会計課警務員)に採用する	5. 1
	酒 井 実	用務員(会計課作業員)に採用する 兼ねて経済学部勤務を命ずる	5. 11
	奥 村 成 盛	用務員(文理学部作業員)に採用する	〃
	高 井 清	用務員(教育学部作業員)に採用する	〃
文部事務官 (付属図書館閲覧係長)	船 見 幸 生	教育学部付属学校事務主任に配置換する	5. 1
〃 (教育学部付属学校事務主任)	竹 腰 秀 次 郎	事務員(教育学部)に配置換する	〃
〃 (教育学部)	高 木 正 則	会計課に配置換する	〃
〃 (教育学部)	林 弘	文理学部に配置換する	〃
〃 (〃)	石 野 俱 行	庶務課に配置換する	〃
〃 (会計課)	伊 東 与 三 次	教育学部に配置換する	〃
〃 (文理学部)	齊 藤 茂 男	〃	〃
用務員(文理学部作業員)	佐 藤 供 枝	薬学部に配置換する	〃
〃 (会計課作業員)	館 盛 真 信	経済学部に配置換する	〃
〃 (教育学部作業員)	松 下 イ ト	教育学部作業員に配置換する(定員内)	5. 11
文部事務官(補導課)	塩 谷 孝 雄	付属図書館閲覧係長に昇任させる	5. 1
教務員(工学部)	高 畑 謙 治	文部教官(助手)に昇任させる	4. 16
講師(教育学部)	佐 藤 好 雄	長崎大学に出向させる	〃
事務員(庶務課)	塩 谷 孝 治 郎	辞職を承認する	4. 30
〃 (教育学部)	田 近 長 蔵	〃	〃
用務員(会計課警務員)	山 崎 鉦 治	〃	〃
〃 (教育学部作業員)	日南田 栄 蔵	〃	〃
〃 (経済学部作業員)	広 木 順 則	〃	〃
事務員(薬学部)	若 杉 竹 次 郎	〃	〃
助手(工学部)	高 畑 謙 治	〃	〃
事務員(庶務課)	大 杉 ミ ャ 子	〃	5. 5
	水 牧 忠 介	講師(工学部)に採用する 任期は昭和35年3月31日までとする	4. 16
	近 藤 正 男	〃	〃
	池 野 尚 志	〃 任期は昭和34年10月31日までとする	〃
	塩 谷 周 三	講師(工学部)に採用する 任期は昭和34年10月1日までとする	4. 16
	浅 地 実	〃 任期は昭和35年3月31日までとする	〃
非常勤講師(文理学部)	尾 崎 進	〃 任期は昭和35年3月31日までとする	〃